

○動向編

◆九州の農業をめぐる主な動き

第1章 九州農業の主要指標の動き

- ◆農業経営の動向
- ◆農畜産物の動向

第2章 食料自給率向上と食の安全の確保に向けた取組

- ◆自給率の向上と食育、地産地消の推進
- ◆食の安全と消費者の信頼確保

第3章 農業の持続的発展に向けて

- ◆人と農地の問題を解決する取組
- ◆農業所得増大に向けた取組
- ◆九州における農産物の生産振興・消費拡大

第4章 地域資源を活かした農村の振興・活性化

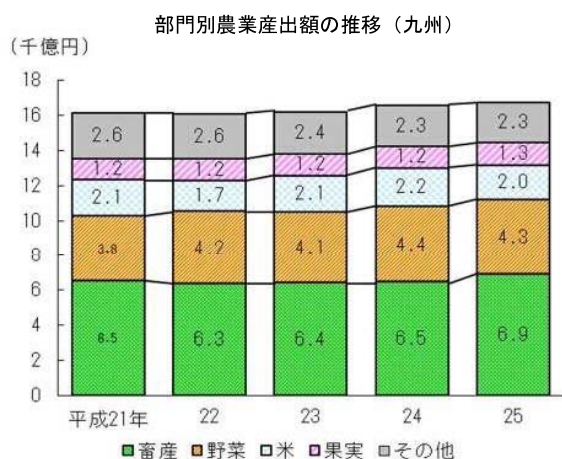
- ◆農山漁村の活性化に向けた取組
- ◆農業・農村機能の維持と地域資源の保全

第1章 九州農業の主要指標の動き

◆農業経営の動向

本文P87～88

- 25年の農業産出額は、肉用牛、豚及び鶏の価格が上昇したことにより増加しました。
- 農業経営体数（26年2月1日現在）は家族経営体の減少により、前年に比べ約5,900経営体（2.6%）減少しました。



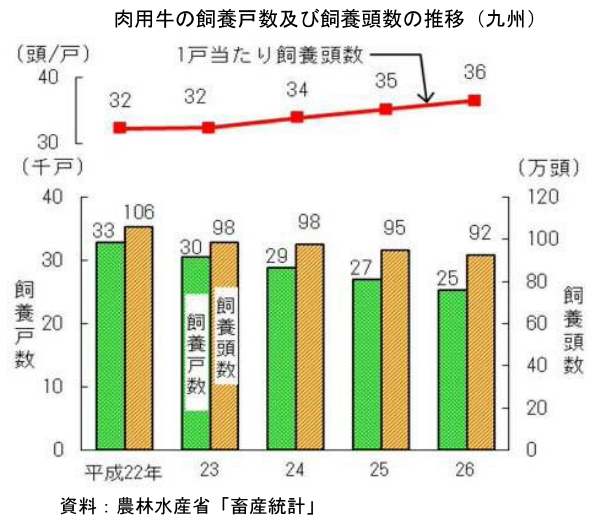
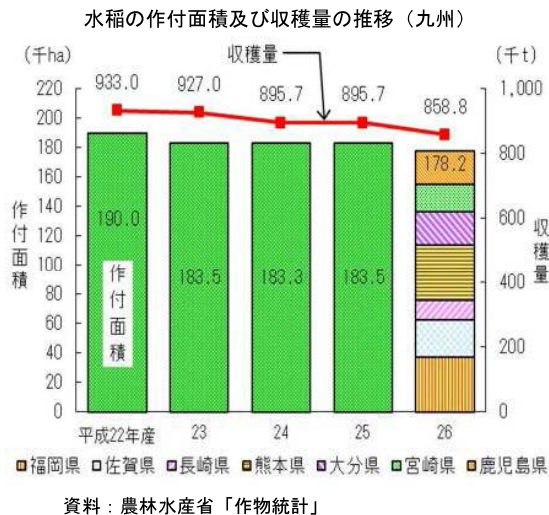
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

資料：平成22年は農林水産省「2010年世界農林業センサス」、それ以外は農林水産省「農業構造動態調査」

◆農畜産物の動向

本文P89～92

- 26年産水稻の作柄は、日照不足により全もみ数がやや少なくなったことに加え、いもち病等の病虫害の被害が見られ、やや不良となりました。
- 麦の収穫量については、作付面積の増加と生育が概ね良好であったことから増加、大豆の収穫量については、作付面積の増加により増加しました。
- 乳用牛、肉用牛及び豚の飼養頭数は減少し、採卵鶏の飼養羽数は増加しました。
なお、各畜種とも1戸当たりの飼養頭羽数は増加しています。（すべて前年との比較）



第2章 食料自給率向上と 食の安全の確保に向けた取組

◆自給率の向上と食育、地産地消の推進

本文P93～98

- 食料自給率の向上を目指し、「食と農のシンポジウム」を開催しました。
- 「和食;日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。
農林水産省では、日本型食生活を推進するとともに、食育、地産地消推進の取組を行っています。

食料自給率の向上を目指した取組

◆食と農に関係する多様な方々の相互理解と連携を深める取組として「食と農のシンポジウム～産地が元気になる多様な取組・連携に向けて～（熊本市）」を開催しました。



【局長賞受賞メニュー】
奄美市立笠利学校給食センター

地産地消推進の取組

◆農林水産省で毎年度開催される「地産地消給食等メニューコンテスト」に九州から14メニューの応募があり、うち、3メニューが九州農政局長賞に輝きました。



シンポジウムの模様

日本型食生活の推進

◆九州農政局では、大学や生協等と連携して、若い世代に、日本の食文化を再認識していただくことを目的に、「だし」と「味覚」をテーマとした「実践講座」を開催しました。



「だしのとり方」実演

◆食の安全と消費者の信頼確保

本文P99～107

- 家畜の伝染性疾病発生に備え、定期的な防疫作業の研修や演習を実施しています。
- 消費者団体等との意見交換会や顔の見える関係づくり等の取組を行っています。

特定家畜伝染病の発生に備えた防疫作業の研修や演習の実施

◆九州に隣接する東アジア諸国においては、口蹄疫や鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染病の発生が続いています。

九州農政局では、「特定家畜伝染病発生時の対応マニュアル」を策定し、発生県からの要請に応じた人的支援体制を確立するとともに、効率的かつ安全に防疫作業に従事するために定期的な防疫作業の研修や演習を実施しています。



◇職員を対象とした防疫服装着・脱着研修の様式。

消費者の部屋特別イベント「しっとと？国のお仕事～夏休み見学デー～」を開催

◆九州農政局では、国の行政機関のPRを目的とした、消費者の部屋特別イベント「しっとと？国のお仕事～夏休み見学デー～」を8月7～8日に開催しました。



◇「しっとと？国のお仕事～夏休み見学デー～」の様子。



第3章 農業の持続的発展に向けて

◆人と農地の問題を解決する取組

本文P108～124

- 九州管内で「人・農地プラン」の作成に至っている市町村数は224で、作成済み地域数は2,364となっています。
- 25年における九州の新規就農者数は1,534人と、昨年に引き続き1,500人台を維持しています。



資料：九州農政局調べ



「人材育成セミナー」の様子

人・農地プランの進捗状況（平成27年3月末更新）

県名	市町村数	プラン作成市町村数	プラン作成地域数	更新を行った地域数	農地中間管理機構の活用方針が明らかになっている地域数
福岡県	60	52	342	195	93
佐賀県	20	20	133	111	90
長崎県	21	21	196	180	103
熊本県	45	45	489	398	171
大分県	18	17	399	81	189
宮崎県	26	26	330	215	136
鹿児島県	43	43	475	368	131
九州計	233	224	2,364	1,548	913
全国	1,741	1,532	12,860	8,853	7,182

資料：農林水産省調べ

注：当該市町村の地域のに、既に人・農地プランが作成されたところがある市町村の数である。

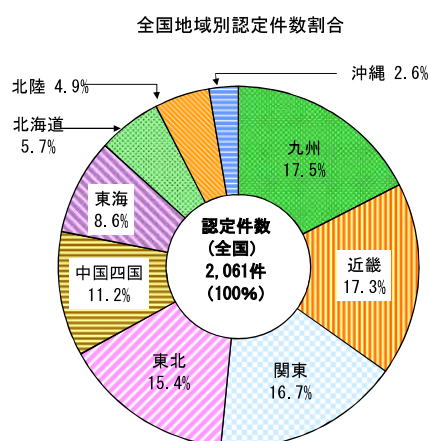
「九州農政局長と語る会」及び「人材育成セミナー」を開催

◆九州農政局では、農政局職員と青年農業者及び各県担当者を交え、「将来の農業を支える担い手の育成について」をテーマとした語る会や農業技術や経営感覚について学ぶ人材育成セミナーを開催しました。

◆農業所得増大に向けた取組

- 農林水産省では、農山漁村の雇用の確保と所得の増大を図り、農山漁村の活性化を図る「6次産業化」を推進しており、23年度からの累計数は361件となっています。（ブロック別にみると、九州は全国トップの累計数。）
- 日本の「食文化・食産業」の海外展開及び日本の農林水産物・食品の輸出拡大を推進。

農山漁村の6次産業化の取組



資料：農林水産省

注：四捨五入により合計が100%にならない場合がある。

農林水産物・食品の輸出拡大の取組

◆九州農政局では、県域を越えた事業者間の連携による輸出促進を図るために、「九州農林水産物等輸出促進ネットワーク」を設置、「輸出戦略実行委員会九州ブロック意見交換会」や「輸出促進セミナー」を開催しました。



輸出促進セミナー

◆九州における農産物の生産振興・消費拡大

- 水田を有効活用して食料自給率を向上させるため、輸入麦の代替となり得る米粉用米の生産を推進しており、米粉の新しい用途としてパン、麺、洋菓子等や料理への利用拡大に取り組んでいます。
- 九州農政局では、飼料増産・耕畜連携による飼料自給率向上のための「九州地域飼料増産に関する研修会」等を開催しました。

米の消費拡大、米粉の普及推進の取組

- ◆1人1年間の米消費量は、食生活の変化等により、平成25年度はピークであった昭和37年度の半分以上。
- ◆農林水産省では、朝ごはんの習慣化や米の消費拡大を推進。
- ◆水田を有効活用して食料自給率を向上させるため、輸入麦の代替となり得る米粉用米の生産を推進。



◇ 大学生を対象に朝ごはん呼びかけ。

◇ 米粉料理教室や米粉利用拡大セミナー等を開催。



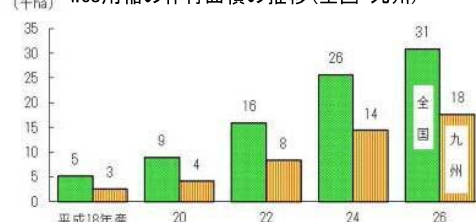
飼料増産運動の推進の取組

◆「九州地域飼料増産行動会議」を設置し、管内の自給飼料関係者等を参集した意見交換を実施。



九州地域飼料増産に関する研修会

(千ha) WCS用稲の作付面積の推移(全国・九州)



資料：九州農政局調べ

第4章 地域資源を活かした 農村の振興・活性化

◆農山漁村の活性化に向けた取組

本文P153～157

- 地域の活性化と地域コミュニティの再生を支援する「都市農村共生・対流総合対策交付金」を創設、九州管内ではこれまで27地域で活用されています。

農山漁村の活性化の取組



シンポジウムの様子

◆「九州グリーン・ツーリズムシンポジウムを「祈りと感謝神話の里の田舎体験」をテーマに宮崎県で開催。（宮崎県西都市ほか）

◆農作業体験や郷土料理の調理体験を通して生徒と農家との交流を深める取組。
（宮崎県小林市ほか）



牛小屋の清掃体験

「医福食農」連携の取組

◆「九州では、障がい者を雇用し、農業を通じて自立を支援する取組や機能性食品の原料の栽培、骨代謝改善素材を利用した飲料の開発など、医福食農連携を実践する取組が始まっています。



NPO法人
「にしはたんぼほハウス」
（熊本県西原村）



甘草の栽培（熊本県合志市）

◆農業・農村機能の維持と地域資源の保全

本文P158～164

- 多面的機能の発揮につながる農業・農村の活性化の取組と農業・農村のもつ多面的な役割と、その恩恵を広く消費者に感じ、気づいていただく活動を展開しています。
- 農村地域の集落機能を維持する、地域コミュニティによる地域資源の基礎的保管理や質的向上を図る活動を支援しています。

農村コミュニティ再生と活性化の取組



五ヶ瀬自然学校

◆棚田百選や名水百選に選ばれる鞍岡地区は、地域の豊かな自然、伝統芸能、農林業を活かしたコミュニティの再生と活性化に取り組んでいます。
（宮崎県五ヶ瀬町）

地域で守る農村環境保全の取組

◆佐織環境保全組合では、集落全体で豊かな農村環境を守っていくことを目的として、地域資源の維持に係る活動や地域内の農村環境保全に取り組んでいます。
（佐賀県小城市）



水路の泥上げ

多面的機能の発揮につながる取組の普及

◆「農業・農村の持つ様々な役割やその恩恵を身近に感じていただけるよう、農産物直売所や農業フェア等の地域イベント、ホームページを通して、多面的機能や取組事例の紹介等の情報提供を行っています。



◇「佐賀平野『水と歴史の探検隊』」での小学生への説明。